

## 後援会事業実施報告書

佐々木 啓

歴史・文化遺産コース／歴史・考古学メジャーの日本近現代史ゼミでは、毎年夏休みに、日本国内の史跡や博物館などを見学する、合宿を行っている。大まかな行先は、昨年度の合宿の経験や当年度のゼミ活動の内容をもとに4年生が決め、具体的な計画は3年生が立てて実行している。日本全国に残る近現代史の史跡や博物館等での展示内容を、時間をかけて見て回ることで、机上での研究ではなかなか得られない、歴史の“現場”を学ぶことができる、貴重な機会である。

今年度は、9月19日～22日の日程で、北海道での合宿を行った。参加したのは、ゼミ担当教員1名と、院生4名、4年生3名、3年生9名の、合計17名であった。

合宿初日（9月19日）は、午後1時半に札幌駅に集合し、旧道庁とサッポロビール博物館を見学し、主として近代以降における北海道の「開拓事業」や札幌の発展過程について学んだ。

2日目（9月20日）は、まず午前中に札幌市内の北海道総合博物館の展示を見学し、原始時代から現在に至るまでの北海道の歴史について学んだ。午後は登別に移動し、のぼりべつクマ牧場とそれに併設されているユーカラの里（アイヌコタン）を見学した。全体として、北海道開拓の裏面で、先住民であるアイヌがどのような体験をすることになったのか、その一端を学ぶことができた。

3日目（9月21日）は、朝食後に旭川に移動し、北鎮記念館を見学して、明治から現在に至るまでの北海道の軍隊・自衛隊の活動について知見を深めた。午後は、旭山動物園を見学したあと小樽市に移動し、運河を見学した。

4日目（9月22日）は、午前中に小樽市総合博物館運河館と同本館を見学し、小樽市の発展の経緯について学んだあと、正午前に現地で解散した。

合宿全体を通して概ね天候に恵まれ、北海道の歴史や史跡について、時間をじっくりかけて現場ならではの体験をすることができた、充実した4日間であった。今年度は広範囲にわたる地域を巡ったため、そのぶん移動時間も長くなってしまったが、ゼミ生相互の交流は十分に深められたのではないかと思う。ご支援をいただいた人文社会科学部後援会に、改めてお礼申し上げます。

以 上



